



平成23年11月11日

各 位

会 社 名 株式会社アイロムホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 渡辺 治
(コード番号 2372 東証第一部)
問 合 せ 先
役 職 取締役 財務本部担当
氏 名 渡辺 潔
電 話 03-5436-3148

営業外収益、営業外費用および特別損失の発生ならびに 平成24年3月期第2四半期業績予想との差異および 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成24年3月期第2四半期において、営業外収益、営業外費用および特別損失を計上することといたしましたので、その概要をお知らせいたします。

また、平成23年5月13日に公表いたしました平成24年3月期第2四半期累計期間（平成23年4月1日～9月30日）の連結業績予想と、本日公表いたしました平成24年3月期第2四半期累計期間の業績に差異が生じたので下記のとおりお知らせするとともに、平成24年3月期通期（平成23年4月1日～平成24年3月31日）の連結業績予想につきましても修正いたしますので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 営業外収益の計上およびその内容（平成23年7月1日～9月30日）

(1) 債務保証損失引当金戻入額

当社の連結財務諸表において、当社および当社の連結子会社における取引先に関して債務保証を行っております。これに対し、取引先の業績等に鑑み、債務保証損失引当金を計上しておりましたが、今般、債務の一部が返済されたことから引当を見直し、相当額を債務保証損失引当金より戻し入れることとしたため、123百万円を債務保証損失引当金戻入額として営業外収益に計上いたします。

2. 営業外費用の計上およびその内容（平成23年7月1日～9月30日）

(1) 貸倒引当金繰入額

当社の連結財務諸表において、当社および当社の連結子会社における貸付金に関して、与信に関わるリスク管理をより厳格に適用した結果、貸倒引当金繰入額126百万円を営業外費用として計上いたします。

3. 特別損失の計上およびその内容（平成23年7月1日～9月30日）

(1) 事業構造改善費用

当社の連結財務諸表において、事務所の移転に伴う諸費用等により、309百万円を事業構造改善費用として特別損失に計上いたします。

(2) 減損損失

当社の連結財務諸表において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、事務所の移転に伴い処分を予定している資産について、76百万円を減損損失として特別損失に計上いたします。

4. 平成24年3月期 第2四半期連結累計期間業績予想数値との差異（平成23年4月1日～9月30日）
（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	一株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	6,800	10	△40	△60	△64円16銭
今回実績（B）	6,612	110	44	△305	△326円34銭
増減額（B-A）	△188	100	84	△245	—
増減率（%）	△2.8%	—	—	—	—
（ご参考）前第2四半期実績 （平成23年3月期第2四半期）	6,680	△133	△173	167	179円34銭

5. 平成24年3月期 連結業績予想の修正（平成23年4月1日～平成24年3月31日）
（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	13,900	540	450	290	310円11銭
今回修正（B）	13,900	540	450	60	64円16銭
増減額（B-A）	0	0	0	△230	—
増減率（%）	—	—	—	△79.3%	—
（ご参考）前期実績 （平成23年3月期）	13,990	340	233	226	241円76銭

6. 差異および修正の理由

当第2四半期連結累計期間において、主力事業であるSMO事業において、複数の試験の受託が延期されたこと等により、売上高は予想数値より下回ったものの、医薬品等の製造販売事業において、当第1四半期から取り扱いを始めた新規の薬剤の受託が引き続き堅調に推移したことにより、営業利益および経常利益で予想数値を上回りました。しかしながら、四半期純利益につきましては、前述の事務所の移転等による特別損失の発生により予想数値を下回ることとなりました。以上のことから、平成23年5月13日に公表いたしました当第2四半期累計期間の連結業績予想数値と比較して、実績値に差異が生じました。あわせて、前述の当第2四半期における特別損失の発生を勘案した結果、上記のとおり通期業績予想を修正いたしました。

※ 上記の業績予想は、本資料の発表日現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上